

# 令和2年度 自己評価シート

認定こども園 おりーぶの森

## 1. 教育・保育理念

子どものよりよい成長と発達を願い 子どもには楽しさを 保護者には安心を 第一義に考え  
地域になくてはならないこども園を目指す

## 2. 教育・保育方針

発達を促せるように、一人ひとりを大切にする

- ・生きぬく力、人のいたみのわかる 子どもを育成する
- ・自己肯定感、自尊心の持てる 子どもを育成する
- ・仲間とあそぶことにより、社会的な人格を形成するための基礎を育成する
- ・自然に触れることにより、子どもの感性を育成する

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み内容	自己評価
職員間の共通理解を図りながら、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、園の理念・方針にしたがい、全体的な計画を編成・実施している。	教育・保育要領を理解し、保育の中でどのように反映させていくかを職員会議や園内研修などの機会に職員間で話し合い、共有し、活かしている。	A
指導計画は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、全体的な計画、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	全体的な計画や教育課程をもとに各種指導計画を作成している。年度末の職員会議には、子どもの実態をもとに、年間指導計画の見直しを図っている。月間指導計画や週案等については、日々の子どもの育ちや成長をしっかり捉え子どもの成長や興味関心に基づいて作成し、毎月の職員会議において共有している。	B
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	日々の保育の中でのエピソードなどから、子どもの育ちを捉え振り返り、翌日の保育へと繋げている。日々、子どもの主体性を大切に考え尊重し、興味関心を十分満たしていけるような環境構成や子どものかかわり方について具体的に考え、保育の充実に努めている。	A
各クラスの成果と課題を報告する。	日々のミーティングや職員会議で、保育の中でのエピソードやクラスの様子などを報告したり、クラスだよりなどによって共有することで子どもへの理解を深めたり、各クラスの保育内容を共有している。また、特別な配慮の必要な子どもや保護者についても情報を共有し全職員で一貫したかかわりができるよう努めている。	A
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人ひとり、発達課題が異なり、また、一つ一つの行動にはその子なりの意味があることを理解した上で、受容、共感することを大切にかかわっている。	A
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	子ども同士でのあそびの中で、共通の目的を持って相談したり工夫するなど、意欲的にあそびを広げている。保育教諭は子どもの主体的な活動を大事にかかわるよう努めている。さらに、遊びの充実のための環境整備や保育教諭の感性豊かなかかわりが必要である。	B

<p>規則正しい生活習慣の定着、手洗い・うがいの定着等に向けての指導を行う。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策として、日々の手洗いの徹底やマスク着用などの新たな生活習慣が定着してきている。「生活リズムの確立のために」というおたよりを年間を通して配信し、さらに毎月「ノーテレビ・ノーゲームデー」を設定することで、規則正しい生活の習慣も徐々に定着しつつある。また、看護師による保健指導では、からだのしくみや生活習慣について学ぶとともに、手洗いの実践等を行った。</p>	<p>A</p>
<p>季節の草花を園庭に植える。 生き物を飼育する。 各コーナーのおもちゃ、絵本の充実を図る。</p>	<p>園庭に草花や木々があり、草花や虫などには身近に触れることができる環境がある。子ども達はそれらを積極的にあそびに取り入れている。また、子どもの興味関心や発達にあったおもちゃや絵本を取り入れ、子どもが自主的に図鑑で調べる姿が見られている。</p>	<p>B</p>
<p>行事は、全体的な計画、園の理念・方針を踏まえ計画し、目標・実行・評価・改善のサイクルを確立する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた上で、行事指導案を作成してきた。ねらいや内容を明確に示し、指導案を基に実践している。評価、反省、改善点等は端的にまとめ職員で共有し、次年度へスムーズに繋がるよう努めている。</p>	<p>B</p>
<p>衛生管理を徹底し、感染症の予防と集団感染を防ぐ。</p>	<p>看護師による毎日のドアノブの消毒、おもちゃの洗濯や消毒、保育室の消毒などをより徹底し、新型コロナウイルス感染症を含む各種感染症の予防や感染拡大防止に努めている。また、今年度については30分ごとの換気を徹底し、食事の際についても飛沫防止に配慮し行ってきた。結果として、各種感染症が流行することはなかった。</p>	<p>A</p>
<p>特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援をする。 家庭、医療機関、関係機関等との密な連携を図る。</p>	<p>特別な配慮が必要な子どもに対しては、家庭や関係機関との連携を図りながら、一人ひとりの発達特性や障がいについて十分に理解した上で、個別の支援計画を作成し支援にあたっている。また、他児とのかかわりの中で成長していけることを大切に捉えながら、クラスとしてかかわっている。</p>	<p>A</p>
<p>小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。 幼保小連携研修に参加する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症のために、例年通り小学校の生徒との交流等を行うことはできなかった。しかし、就学意識を高めるために、小学校ごっこなど日々の保育で行うなど工夫してきた。また、3月には近隣の小学校の先生方に協力を得て、校庭からの授業見学や校庭の遊具で遊ぶ体験をすることができた。就学を控えた子ども達にとっては、とても貴重な機会となり、安心感や期待感へと繋げることができた。</p>	<p>B</p>
<p>職員の安全管理の意識を強化する。火災・地震などの災害発生時、不審者侵入時の安全確保のための通報・避難・保護の方法手段を共有し、訓練を行う。防災・防犯マニュアルを策定する。</p>	<p>毎月の避難訓練やその他様々な災害を想定した訓練を行い、非常時に対する意識を持てるようにしている。防災・防犯マニュアルを基に、災害時や非常時について周知し共有している。今後さらに、職員一人ひとりの非常時に対する意識を高めていきたい。</p>	<p>B</p>
<p>園だよりやホームページ等で、教育・保育の状況を伝え、保護者と情報共有を図るとともに、理念・方針への共通理解を図る。</p>	<p>行事の様子やエピソード、ドキュメンテーションなどを園だよりやホームページ等でわかりやすく伝えている。送迎時には子どもの様子を保護者に伝え、共に成長を喜ぶ機会になっている。保育参観や絵画展では、描画活動やリズム遊び、はだし保育の実践を報告・共有することができ、園の理念や方針への理解を深めることができてきている。</p>	<p>B</p>
<p>地域の子育て家庭に対して、子育てに関する情報の提供や気軽に集える交流の場を提供している。</p>	<p>子育て支援「たんぼぼのへや」を週2回、園庭開放を週に1回行っている。子どもの主体的な遊びを大切にし、その重要性を伝えるよう心がけている。また、助産師による保健相談や育児相談等、母親に寄り添い支援を行っている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、休止期間があり、電話において育児・子育て相談を行った。</p>	<p>C</p>
<p>教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。また、各研修会や研究会に積極的に参加し、職員に情報提供や資料提供をする。</p>	<p>学び続ける姿勢を大切にし、職員一人ひとりの技能・技術の向上を目指している。今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、園外の研修やキャリアアップ研修についてはリモートでの研修がメインとなり、例年と比べると研修会への参加が少なかった。しかし、その分、全職員での園内研修の充実を図ることができ、園で大切にしている「描画活動」への理解を深めることができた。</p>	<p>B</p>
<p>職員の心得を熟読し、職員としての質の向上をはかる。</p>	<p>一人ひとりが十分自覚を持って、子ども、保護者、職員とのかかわり、当事者意識を持ち、主体的に保育に当たるようにしている。さらに、一人ひとりが向上心と意欲を持って取り組む必要がある。そして、全職員が楽しく職務を全うできるようになると良い。</p>	<p>B</p>

#### 4. 総合的な評価結果

理 由	自己評価
<p>新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の中でできる最善の保育について考え、おりーぶの森の全体的な計画、教育課程、年間指導計画をもとに子どものよりよい育ちを目指し保育を行ってきた。夏まつりや運動会をはじめその他の行事の実施方法については、子どもを中心に捉え、保護者の理解を得ながら実施した。改めて、保護者の理解を得ることの重要性を実感し、そのためには子どもの育ちについて日々分かりやすく伝えていくことが必要であると感じた。</p> <p>今年度の園内研修では、描画活動について改めて職員全体で学び、共有し、園全体として描画活動の取り組みを見直し、その充実を図ることができた。次年度においても、子どもを中心に捉え、保護者を巻き込み、コロナ禍でできる最善の教育・保育、遊びについて考えていきたい。</p>	B

#### 「3. 4. 」の評価結果の表示

評価	十分達成されている	A
	達成されている	B
	取り組まれているが、成果が十分でない	C
	取り組みが不十分である	D

#### 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
室内環境、園庭環境・果樹園の充実を図り、保育環境の向上を目指す	室内遊びのコーナー作りの工夫と年齢ごとの発達や興味関心に合ったおもちゃを用意するなど、遊びの環境を充実させる。南の園庭の環境整備を進め、砂、土、泥あそびがさらに広がるような道具や素材を充実させ、その使い方についても丁寧に伝えていく。子ども達の興味関心を満たし、感性を引き出せる環境整備を心がけていく。
延長保育・土曜保育の環境・保育の充実	朝と夕の延長保育、土曜保育の流れや環境、食事、おやつを進め方、あそびの充実を図る。次年度は、リーダー会議において取り上げ、積極的に取り組んでいく。
保護者を含めた、教育・保育理念の共通理解を図る	職員の資質向上の取り組みとして、園内研修の充実をさせるとともに、保護者に対してもより良い子どもの育ちについて伝え、教育・保育理念の共通理解を図る。教育・保育理念のもと、園と保護者がともに協力し合い、子どもの育ちを見守っていく。今年度は、描画活動について重点的に行ってきたので、次年度は、リズム遊びの理解を図っていきたい。また、引き続き「生活リズムの確立」についてはおたよりを配信し、理解を得ていく。
育児担当性の保育の見直し	育児担当性は、“一人ひとりを大切に保育”の一環として、平成29年度より0・1・2歳児において導入し、試行錯誤を重ねながら実践してきた。今までの実践を振り返りながら、改めて“一人ひとりを大切に保育”について考え、食事や着脱、手洗いの方法などについて一つ一つ手順を確認し共有していく。クラスの職員で話し合う機会を作り、職員同士の連携を密にし、スムーズな生活の流れを作っていく。
地域の子育て支援の充実	コロナ禍でできる子育て支援について考え、HPや電話なども積極的に活用しながらその充実を図っていく。子育て支援「たんぼのへや」では、引き続き保育教諭と看護師が担当することで、専門性を活かしながら、親子が集える場所を作っていく。園庭開放では、園全体で暖かく受け入れ、園児とのかかわりを大切に見守っていききたい。
地域の人々における園理解を図る	日々の保育の中で、地域との繋がりを意識していきたい。また、HP情報を最新のものとするとともに、HPやおたより、行事等を通して、園の子ども達の姿を配信していくことで、地域の人々にも園の教育・保育を理解していけるよう、努めていく。